

民主化闘争情報

No. 1034

2022年5月11日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

貨物鉄産労は、4月28日付で新たに2名の仲間を迎えた。同労組では、3月10日にも3名の仲間を迎えており、昨年6月のJR連合の定期大会以降で言えば、7月に1名、10月にも1名の加入があり、これで合計7名の新たな仲間を迎えたことになる。

また、JR北労組でも3月25日に2名の加入があり、同じく昨年6月に2名、10月に1名の加入があったことから、合計5名の新たな仲間を迎えたことになる。

まずはこれら全ての仲間に対し、その決断に敬意を表すとともに、JR連合・加盟各単組一同、心よりこの加入を歓迎する。さらに、コロナ禍における世話役活動は非常にやりにくかったというのが実情であり、その中で地道な声掛けを絶やさず、この組織拡大を達成した両労組の役員にも敬意を表したい。

JR北労組・貨物鉄産労が連続して複数名の組織拡大 ～3月5名・4月2名、昨年定期大会以降で合計12名の拡大～

これらの仲間の加入経緯を聞くに、個々で事情は異なるものの、共通する事柄がある。それは皆、自由な意思・判断のもとでJR総連に属する北鉄労（JR北海道労組）・日貨労（JR貨物労組）と決別し、JR連合への加入の決断をしたということだ。

JR連合への加入について、我々は“無理強いをしない”というのがひとつのスタンスであり、声をかけている他労組組合員や労働組合未加入社員には、あくまでJR連合を知ってもらおうという観点から関係を持つ役員が様々な情報提供をし、組織や各種活動に対する認識を高めることに繋げている。

そのうえでの加入は、あくまで自由意思に基づく。実際に対応する役員に話を聞くに、加入した仲間たちは、我々が伝えている情報以上にJR連合のことを調べ、あらためて信頼できる組織という認識を持ってきており、さらにはJR総連の実態を知り、見切りを付けて加入を決断したという。

北鉄労の執拗な勧誘に不安を覚え、多数の新入社員がJR北労組に相談

ところで現在、新入社員研修がJR各社で開催されており、職種によっては5月中から順次職場に配属される社員がいる。

こうした中、JR北海道においては、労働組合未加入の新入社員が北鉄労からの執拗な勧誘を受けて困り果て、JR北労組へ相談する例が増えている。

これらの相談者の話から、労働組合未加入の新入社員は研修センターでの講義終了後、北鉄労役員より、「〇日までに（北鉄労へ）加入しなければ大変だぞ！」「組合に入れ！」などといった加入を半ば強制するような言葉とともに、毎日のように北鉄労加入をしつこく迫られているという実態が明らかになった。

JR北海道に使命感や希望を持って入社した社員たちは、入社して日が浅く、そもそも分からないことだらけで不安が多い中であり、執拗に労働組合加入を迫られては不安がより募るばかりでしかなく、不適切きわまりない。北鉄労役員はそんなことも分からないのだろうか。。。

労働組合の加入は、個人の自由意思に基づくものだ。JR北労組をはじめとするJR連合の加盟組合は、民主的労働組合であり、組合員を不安に陥れるようなことは絶対に行わない。

JR北海道・JR東日本・JR貨物の新入社員の皆さん！

JR連合(JR北労組・JREユニオン・貨物鉄産労)は、

全国の仲間とともに皆さんの加入をお待ちしています！